

前向きな心 学ぶ意欲

校長 八木澤 龍馬

年が改まり、新鮮な気持ちで、今日、3学期の最初の日を迎えることができました。

地域の皆様には、冬休み中も、子どもたちの見守り等、ありがとうございました。

一年の計は元旦にあり、とありますが、皆さんは、今年、どのような目標をもちましたか。私は、「健康で、自分や周囲が、日々、伸びていくよう、まず、自分が努力をつづけていくこと」としました。本年もよろしく願いいたします。

明日は、さいたま市学習状況調査が全市一斉に実施されますが、この調査等の結果からわかることについて、2学期末号のつづきをお話します。

4月に行われる全国学力学習状況調査や1月のさいたま市学習状況調査では、学力検査だけでなく、生活や学習への意欲や取組のようす、生活習慣などをアンケート形式で答える時間が設定されています。この回答の分析によって、児童の特徴が浮かび上がってきます。

まず、今年度4月、6年生で実施した全国学力学習状況調査によると大谷口小学校では、「算数の勉強が好き」または「どちらかと言えば好き」と肯定的に答えた児童が64.8%、「国語の勉強が好き」と肯定的に答えた児童が72.8%でした。算数は平均値でしたが、国語が好きな児童の割合は、市平均、全国平均を大きく超えました。また、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と答えた児童も83%という高い割合です。これも、さいたま市の平均を超え、全国と比較すると7%も高く、「どちらかといえば」を含めて、肯定的に答えた児童は97.8%に上ります。算数や国語の勉強が好きな子が多く、ほとんどの児童がいわゆる成功体験を味わったことがあるといえます。また、昨年度のさいたま市学習状況調査では、対象の3年生から6年生の約90%が「学校に行くのは楽しい」と考えています。

このように学校生活を肯定的にとらえる児童が育っているのは、大谷口の地域や学校の長い年月の積み重ねの結果であると思います。さらに、4月からの日々を振り返ると、ご家庭や地域の力と学校の取組がうまくかみあって、子どもたちの前向きさを引き出しているのだろうと実感しています。

児童の前向きな心、学ぶ意欲は、今は数値として測定はできませんが、必ず、生きた学力として今後、芽を出すであろうと確信しています。「学校に行くのは楽しい」約90%の児童と、まだ、楽しいと答えることのできなかつた約10%の児童を支え、一人ひとりの良さに気づき、伸ばす教育活動を、本年もさらに発展させていけるように努力してまいります。